

# ビジネスリーダーに聞く

「ウィズコロナのリーダー像」①

アライプロバンス取締役

## 田草川 直樹氏

新型コロナウイルスの感染拡大は企業経営や人々の働き方などに大きな影響をもたらしている。ウィズコロナの時代に組織のリーダーに求められる役割は何か。日本生産性本部が実施している「次世代経営幹部育成プログラム（CLP）」を受講した企業の経営者や経営幹部に、あるべきリーダー像や、経営人材の育成のあり方などを聞いた。



創業明治36年のアライプロバンス（旧新井鉄工所）は17年間、主に石油掘削機器の製造・輸出などの金属加工業を続けてきたが、2020年7月に社名

## 総合不動産業転換の一翼を担う



アライプロバンス浦安の全景

ワンマイル物流に役立つ視し、経営ビジョンと戦略構想をもとに大型物流倉庫を開発しては「城東エリアで経営戦略を実行していた。第2弾として、チャレンジ精神ナンバー今年夏には江戸川工場跡地に「アライプロバ社となる」を掲げている。今後は、開発運用の田草川氏は、大手建設会社、不動産鑑定事務所、マンションデベロッパー会社を経て、不動産事業の統括責任者として2019年2月に同社に入社した。アライプロバンス浦安を満室稼働させて安定収益を確保するための営業活動に注力している。また、今年夏に着工するアライプロバンス葛西の準備進捗や、手持ち資金を活用した新規物件の取得なども強力に進めていきたくしている。

を変更し、従来の製造業から総合不動産業へと、大きく舵を切った。社名のプロバンスは、資産を表すプロパティと前進を表すアドバンスから名付けた。

その第1弾として、昨年10月28日に竣工したのが、浦安工場跡地に建設した「アライプロバンス浦安」。都心に近いという立地を生かし、都心へのラスト

4800平方メートルの浦安工場跡地や、敷地面積5万6000平方メートルの江戸川工場跡地（江戸川区東葛西）などのま

産鑑定評価などを展開し、物流倉庫のほか、マンション（分譲、賃貸）、オフィスビル、建物取引士、マンション管理士、管理業務主任者、行政書士等）が

同様の物件を扱う総合不動産業を目指しているという。

田草川氏は自身を、社長と専務を上司に持ち、部課長を部下に持ち、「中間リーダー」だとして、経営トップと部課長の間で社内の風通しを良くすることも、重要な役割であると考えている（田草川氏）。

（3回連載）